

障がい者当事者論

《担当者名》○長谷川純子（リハビリテーション科学部）j-hasegawa@hoku-iryo-u.ac.jp
佐藤 一成（リハビリテーション科学部） 浅野 葉子（リハビリテーション科学部）
小林 健史（リハビリテーション科学部） 若松 千裕（リハビリテーション科学部）

【概要】

身体的・精神的障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実際を把握し、人間存在の多様性とエンパワーメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。

【学修目標】

一般目標

リハビリテーションの対象となるヒトの「生活」を理解するために、地域在住高齢者や障がいを有する方々の日々の生活の様子に関する話や意見交換を通じて、具体的な生活のしづらさや工夫などについて説明できる。

行動目標

1. 障がいを有しながら日々生活されている方々の日常生活のお話を通して生活の中での工夫や問題について列挙することができる。
2. 国際生活機能分類（ICF）に照らし合わせながら、その方の生活機能をとらえることができる。
3. 障がいを有する方やその家族の方にとって、リハビリテーション専門職がどのような役割を果たしているのかを列挙することができる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2.人の心と体の基礎知識をもち、患者中心のケア、医療倫理の遵守などのケアの原則を踏まえ、「医療人としての視点」に立ったデータサイエンティストとしてふさわしい解決策の策定能力を身につけている。

【実務経験】

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業での実務経験を活かし、講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している